

## ステージ構成と歌詞

開会あいさつ

### 【オープニング】 団歌：汐風にのせて

トンネル抜けて山あい進めば  
春風に若葉が揺れている  
風に誘われ崖の階段 登れば汐の香りがする  
太陽と青空と雲と海と 吹き抜ける汐風よ  
あなたのように軽やかに強く  
歌えればいいな 歌っていこう

木々の葉も落ち 冷たい雨に  
凍えながら歩むいつもの道  
苦しい時も悲しい時も  
ともに歌う 仲間が待っている

汐風香るこの街で  
汐風よ わたしたちの 歌を届けて  
汐の香り添えて 遠くまで届け どこまでも  
新たな道をともに歩もう  
私たちは汐風

### 【第1ステージ】：世界の名曲

#### 1.1 緑の森よ

緑の森よ 我は歌わん  
なれはこよなき我がいこいと  
長き冬の日 嵐にめげ  
こずえは寒く 雪を呼べど  
春風吹けば よみがえりぬ

緑の森よ 我は歌わん  
なれはこよなき我が憩いと  
小暗き森の きぎはしげり  
強き真夏の 日はおごれど  
梢を延べてのべて こかげなしぬ

#### 1.2 歌の翼に

うたのつばさを かりてゆかな  
さちにあふるる ゆめのくにへ  
ひのさすそのに はなはかおり  
みよやいけには ハチスにおう  
みわたすいけに ハチスにおう  
  
なつかしきかな ゆめのくにや

いそぎゆかまし きよきそのへ  
かわゆきすみれ われをまねき  
そよぐかぜさえ とみをよべり  
そよぐかぜさえ とみをよべり

いざわがともよ たちてゆかな  
ゆめはうるわし はてぬくにへ  
はてぬくにへ  
はてぬくにへ くにへ

#### 1.3 1.4 Ave Maris Stella

Ave, Maris stella めでたし 海の星よ  
Déi mater alma 優しい神の母よ  
Atque semper Virgo そして永久の乙女である  
Félix caeli porta 幸せな天の入口よ  
Sumens illud Ave かのアヴェを  
Gabriélis ore ガブリエルの口から受けられた方よ  
Funda nos in pace 私どもを平和の裡に据え固め  
Mutans Evae nomen エヴァの名を並べ替えてください  
Solve vincla reis 罪びとたちの鎖を解き放て  
Profer lumen caecis 盲目の民に光を差し出せ  
Mala nostra pelle 私共の悪を打ち破り  
Bona cuncta posce すべての善を願え

#### 1.5 野ばら

わらべは見たり 野中のばら  
清らかに咲ける その色めでつ  
あかずながむ くないにおう  
野中のばら

#### 1.6 ウィーン我が夢の街

喜びも悲しみも みんなこの街に  
夜でも昼でも 心のなぐさめ  
誰にでも愛される わたしのふるさと  
私の心は いつもこのまちに  
遥か聞こえてくる 楽しい歌声  
ウィーン ウィーン  
おまえは 心のふるさとよ  
古びたまちかど かわいい娘たち  
ウィーン ウィーン  
おまえは わたしの夢のまち  
幸せあふれる 夢のまち ウィーン

遙かにいつの日かこの世に 別れるその日

晴れわたる大空に この身は漂い  
遙かに見下ろすシュテファン寺院の  
尖塔に永遠の別れを告げよう

遙かに聞こえてくる 楽しい歌声  
ウィーン ウィーン  
おまえは心のふるさとよ  
古びたまちかど かわいい娘たち  
ウィーン ウィーン  
おまえはわたしの夢のまち  
幸せあふれる夢のまち ウィーン

### 1.7 モルダウ

ボヘミアの川よ モルダウよ  
過ぎし日のごと 今もなお  
水清く青き モルダウよ  
わが故郷を 流れゆく  
若人さざめくその岸边  
緑濃き丘に年ふりし古城は建ち  
若きむれを守りたり

優しき流れよ モルダウよ  
ひかり満ち わがころにも 常に響き  
永久の平和をなれば歌う  
讃えよ故郷の流れ モルダウ

## 【第2ステージ】日本の合唱曲

### 2.1 瑠璃色の地球

夜明けの来ない夜はないさ  
あなたがポツリ言う  
灯台の立つ岬で  
暗い海を見ていた

悩んだ日もある哀しみにくじけそうなきも  
あなたがそこにいたから 生きてこられた  
朝陽が水平線から 光の矢を放ち  
二人を包んでゆくの 瑠璃色の地球

泣き顔が微笑みにかわる  
瞬間の涙を世界中の人達に  
そっと分けてあげたい

争って傷つけあったり  
人はよわいものね  
だけど愛する力もきっとあるはず

ガラスの海の向こうには 広がりゆく銀河  
地球という名の船の 誰もが旅人

一つしかない 私たちの星を守りたい

朝陽が水平線から 光の矢を放ち  
二人を包んでゆくの 瑠璃色の地球

### 2.2 信じる

笑う時には 大口あけて  
おこるときには ほんきでおこる  
じぶんにうそが つけないわたし  
そんなわたしを わたしはしんじる  
しんじることに りゆうはいらない  
しんじることに りゆうはいらない

じらいを じらいをふんで あしをなくした  
こどものしゃしん めをそらさずに  
だまって なみだをながしたあなたを  
わたしはしんじる  
しんじることでよみがえるいのち

わたしはしんじる わたしをしんじる  
あなたをしんじる せかいをしんじる

はずえのつゆがきらめくあさに  
なにをみつめる こじかのひとみ  
すべてのものが ひびあたらしい  
そんなせかいを しんじる  
しんじることはいきるみなもと  
わたしはしんじる

### 2.3 あなたへー旅立ちに寄せるメッセージ

白木蓮にも似たその白い翼で  
まだ見ぬ世界、未来という果てしない空へ  
旅立ってゆくのですね  
まばゆいほど輝いて旅立ってゆくのですね  
温かな巣をあとにして

愛と涙 そして知るだろう  
人生という名の迷路の果てに  
信じあえることの喜びと  
悲しみを知った分優しくなれることを

いろんなことがあって  
自分を嫌いになった  
なぜ僕だけがこんな目に遭うと  
他人を羨んだりもしたさ  
荒んだところに刺さったのは  
意外なやつの言葉だった  
もう一度あの空を  
飛べるかもしれないと思った

張り裂けるよな悲しみの行き場  
煮えたぎるような憎しみの出口  
時よ おまえはみてきたのだろう  
憎しみの極みを 戦いの果てを

時の女神よ 教えてください  
握り合えない 手と手ならば  
隔てる心の壁がいつか癒され  
なくなる日はくるのでしょうか

手と手をつなぎ その手をかぎそう  
人生という名の 迷路の果てに  
信じあえることの喜びと  
悲しみを知った分 優しくなれる

愛と涙あなたの手の温もり  
人生という名の迷路の果てに  
信じあえることの喜びと悲しみを  
知った分優しくなれる

### 【第3 ステージ】組曲「野辺に咲く花」

#### 3.1 つゆくさ

つゆくさのあおきしずくを  
ふでさきにふくませて  
わたしはしろき きぬのうえにも  
ささやかなおもいをかきましよう

だれにもとどかぬ、このおもい

つゆくさのあおきしずくの  
そのいろのかそけさは  
こころをこめてかいたとしても  
あらえばすぐにきえてしまいます  
だれにもとどかぬ、このおもい

つゆくさ、つゆくさ  
しずかなそのあおは  
わたしのこころのとどかぬおもい

#### 3.2 あじさい

はなかげのひとは  
ゆびさきをうすむらさきにそめて  
ひやりとほほえんでおりました  
あじさいはついおく  
あめのひのきおく  
つゆさむのそらのおぐらさ

そのみずのようなあおさは  
もうかわりはててしまいました

#### 3.3 すみれ

つつみにはるがくるならば  
こみちにすみれがさきましよう  
かわべにみなみのかぜふけば  
のべにもすみれはさきましよう  
けれども つつみにはるがきて  
やがて こみちにひがさして  
せいせいと かわべにくさがもえ  
とうとうと のべにはながさきみちても

わたしのこころにすみれのはなのさきもせで  
すみれ、すみれ、わたしのこころのすみれぐさ

#### 3.4 わたすげ

もういちど ここにくることがあるかしら  
ちをはいうようにふくかぎに  
ちぎれそうにゆれる  
わたすげ わたすげ  
やがてわかれのときがきて

## 【会場と合同歌唱】：上を向いて歩こう

こうしてなつのひも  
はやおわろうとするとき  
ふいてくるかぜのさむさに  
ひはかたむき、そして  
わたすげ わたすげ  
やがてわかれのときがきて

### 3.5 わすれなぐさ

すいしょうのようにとうめいに  
うみのようにあおく  
おもいでのようにかすかに  
あさつゆのようにきらめく  
わするるなかれというくさの  
そのはなのいろのかすけさ  
ひとは だれもかなしいことを  
そして うれしいことだって  
いつかわすれてしまいます

どんなにたくさんのおすれなぐさを  
そのてにつんでみたとても

上を向いていて歩こう  
涙がこぼれないように  
思い出す 春の日  
一人ぼっちの夜

上を向いて歩こう  
にじんだ星をかぞえて  
思い出す 夏の日  
一人ぼっちの夜

幸せは雲の上に  
幸せは空の上に

上を向いて歩こう  
涙がこぼれないように  
泣きながら歩く  
一人ぼっちの夜

思い出す秋の日  
一人ぼっちの夜

悲しみは星のかげに  
悲しみは月のかげに

上を向いて歩こう  
涙がこぼれないように  
泣きながら歩く  
一人ぼっちの夜 一人ぼっちの夜

## 【アンコール】 :

閉会あいさつ